

## 金沢大学 家政のピヨコたち 『アポ電』

代表者：金沢大学人間社会学域学校教育学類 教授 尾島 恭子

### ■ 応募動機（企画提案書から）

人間社会学域学校教育学類家政教育専修の学生は、毎年本事業に応募し活動しており、その意義を十分理解しており、活動への意欲は高いものとなっています。構成メンバーは全員、小学校教諭および中学・高校の家庭科教諭の教員免許を取得予定であり、学校教育において家庭科は消費者教育を扱う科目の筆頭にあげられることから、本事業への参加の経験を、将来教員となった後の学校教育現場で活かすことが期待できると考えました。

### ■ テーマ選定理由（企画提案書から）

最近、「アポ電」という言葉をニュースでもよく見るようになってきているため、石川県の高齢者の皆さんが実際に被害にあわないよう寸劇で披露することにしました。また、アポ電に限らず、高齢者の弱みに付け込む電話による勧誘・詐欺は依然として多いので、電話で詐欺にあわないための注意喚起もしっかり行いたいと考えました。

### ■ あらすじ

ある日、石子さんの家に、**銀行協会を名乗る者からアンケート調査の電話がかかってきます。**人のいい石子さんは聞かれるままに、住所や一人暮らしであること、利用している銀行などの個人情報を答えてしまいます。



その数日後、今度は**銀行を名乗る者から電話がかかってきて、「銀行のオンラインシステムから個人情報が流出して、口座を凍結する可能性が出てきました。1時間のうちに対処しないと、口座の残額がゼロになってしまいます。そうならないためには、暗証番号を変更する必要がありますので、これからキャッシュカードを取りに伺います。」**とされます。

少し不安に思ったものの、話を信じた石子さんはキャッシュカードを準備し始めます。

そこへ近所の川子さんが遊びに来たので、石子さんはこれから銀行の人が来ることを話しました。





川子さんから「おかしい」と言われ、前もって一人暮らしか、お金はあるか等と電話で聞いてから詐欺や強盗に来る「アポ電」の手口について聞きます。

ちょうどその時、キャッシュカードを取りに来た偽銀行員は、話し声を聞いて帰っていきました。

その後、石子さんは川子さんから「知らない電話は疑う」「自分のことは言わない」「誰かに相談する」「188で消費生活センターに相談できる」といった被害にあわないための注意事項を聞きます。

また、民生委員の金子さんからは地域の見守り活動についての話を聞きました。



最後に、被害にあわないために「知らない人からの電話はまず疑うこと」「何かあれば、1人で決めずに誰かに相談したり、188に連絡すること」を確認し、周りの人にも教えてあげることができるといいですねと会場の皆さんに呼びかけました。



### 【参加学生の感想】

初めは緊張と不安もありましたが、どこへ行っても温かく迎えて下さり、寸劇が終わると毎回ほっこりした気持ちになりました。私たちの演技の細部まで反応して笑ってくれ、「消費生活センター」「188」の場面では、頷いて口ずさんでいて、ここにいるおじいちゃんおばあちゃんには、絶対消費者被害にあわないでほしいという気持ちが生まれました。（3年）

寸劇を通して、多くの方に詐欺や悪質商法がどういふものか知って頂けたと思います。役を演じて、言葉巧みに誘導して騙そうとする人たちがとても怖いと感じました。普段の生活の中でも、寸劇を思い出して絶対に騙されないで頂きたいです！（3年）

### 【講評】

「アポ電」の手口が非常にわかりやすく描かれていました。また「知らない電話はまず疑う」「自分のことは言わない」などの被害にあわないための注意事項についても、友達との会話の中で自然に紹介されており、納得できる流れとなっていました。



知らない人からの電話はまず疑い、個人情報を話さないようにしましょう。何かあったら、1人で決めずに誰かに相談。「消費者ホットライン（188（いやや）」にも相談できます。